摛藻堂四庫

全書

薈

曾要

子部

欽定四庫全書替要母常書籍卷六十六

詳校官兵部主事臣雷純

御定佩文齊書畫譜卷六十六 欽定四庫全書養要卷一萬一十三百九十八子部 歐陽修王彦章畫像記云歲之正月過鐵槍寺得 歷代無名氏畫下 石刻在天慶觀乾道中開齋堂掘得 與地碑目

李建勲等畫影 李後主昭惠后畫像 后畫像周必大廬山後録 畫像而拜馬歲人磨滅隱隱可見亟命工完理之畫 周必大至廬山荆林寺登至樂亭觀李後主及昭東 巴百餘年矣完之復可百年六一居士其 李建熟等畫影皆輕裹公服一如風唇成光南唇書 南唐 卷六十六

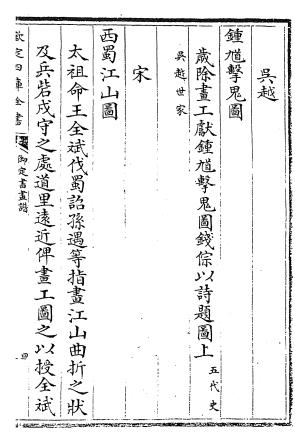
耿先生真

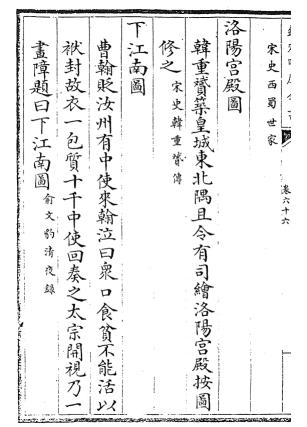
烈祖圖寫李長者像班之境內陸游南唐書 耿先生為女道士王貌鳥爪後不知所終金陵好事 者至今猶有耿先生寫真云陸 游南唐書

戲珠龍畫障 障子書 先主取入宫陳於內寢+回春秋 此常對聖人未幾一僧取圖置誌公塔中已而南唐 傑因障間繪戲珠龍屬元龜詠之十四本 胡元龜居永新少有俊才當謁本邑令見其風貌頭 曰心巧文益曰誰是汝心其人黙然無對十國春秋 元宗時有獻畫障子者僧文益問曰汝是手巧心 卷六十六

功臣畫像 灾 建畫像 晉卿 巴日車 史前蜀世 水平五年起壽昌殿於龍與官畫王建像於壁 前蜀 東坡集 私跋南唐别耳圖云定國所藏挑耳圖云得之 Š Alla 一种定書畫譜 Ξ 五

花木圖 一鶴圖 國春秋 前蜀王承休献花木圖盛稱泰州山川土風之美 永平五年起扶天閣畫諸功臣像 廣政二十二年西班將軍黎德昭獻畫鶴圖語 後蜀 十國春秋 卷六十六 五 代史前蜀 授 世





漢武封禪圖 禪會圖 大中祥符初夏侯晟上漢武封禪圖續金匱玉匱石 破石距之狀皆有注釋上覽而善之宋史 夏 侯崎 傳 繪其像成圖目曰禪會王經國老該先 李遵易楊億劉筠常聚高僧論宗性遵助命畫工各

趙氏神仙圖

11 日 11 15 御定書書譜

王欽若為景靈官使閱道藏得趙氏神仙事迹四十

种放山居圖 陳搏畫像 盆 其觀田租 咸平六年种放表謝歸故山部命館閣官餞於瓊林 大中祥符四年真宗幸華除至雲臺觀閱搏畫像除 苑十月遣使就山撫問圖其林泉居處以献 宋史 · 万四月全書 繪於耶無宋史王欽若傳 宋史陳持傳

退思嚴畫 魯宗道中書罷歸私宅别居一小齊繪山水題曰退

優鉢羅華圖 思巖

国老該苑

秘問有圖畫世不能名自昔號陀羅華考索帳目自 大中祥符六年京兆府進入崇寧三年曝書魚下

七賢圖 **光尼日睡** 45 一天御定言盂皆

其圖考名識之蓋優鉢羅華也廣川

畫

許子春東園園 洛陽牡丹圖 祖見四月日日 答 歐陽修七賢畫序云先人為綿州軍事推官三年不 祀張此圖於壁歐陽文忠公集 許子春以職事走京師圖其東園者來以示予歐防 歐陽修洛陽牡丹圖詩云洛陽地脈花最宜牡丹尤 物罷官有絹一匹畫為七賢圖六幅後歲時祭 **ま六十六**

異獸圖 盤車圖 昔人好怪者指是方朔所說暴録海荒之外部禽怪 傳多姓名失後來見者知謂誰乞詩梅老聊稱述 歐陽修和聖俞盤車圖詩云自言昔有數家筆 若見故人面其間數種昔未窺歐防文忠公集 為天下奇我告所記數十種於今十年半忘之開圖 陽文忠公集

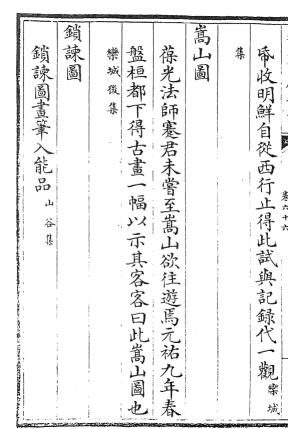
?

廣州清刺史畫像 混混醜怪總命曰其獸圖張亦非進集 5四月在書 歌圖而寶之或得鳳之一毛麟之一角肖人而體 張田知廣州作飲賢堂繪古昔清刺史像日夕師 神宗以唐介畫像不類命取禁中舊職本賜其家 ()宋史張田傳 史唐介傳

畫文殊普賢

峨眉高處不可上下有絕潤錮九泉朝陽未出白露 貌偉麗如開運重崖宛轉帶林樹野水荒湯浮雲天 先後執孟岳老僧樣另森比肩山林修道幾世劫賴 蘇賴詩云誰人畫此二菩薩趺坐花心來象後弟子

定四庫全書一题一御定書畫譜 想亦爾今之畫圖誰所傳吾兄子瞻苦好異敗繒破 清躔遊人禮拜干萬萬逸還漸遠如飛煙五臺不到 起有光升天如月圓靈仙居中粗可識有類白兔依



欴 濟南伏勝圖 定日車全書 一覧/御定書畫譜 臨流未涉者有見險在前依石坐卧者頗極其情 明總淨几散髮解衣而縱觀之亦是幻法無真假 及濟者涉深水者老億極少者扶持幾欲不濟者有 御史晁大夫號為峭直刻深觀所寫形質似未至也 右華寫唐人畫行即僧渡水已渡而休與泛濟而未

李冠卿所收畫 謝靈運盤足像 錢世京家謝靈運盤足坐像亦奇古 儒家子此亦丹青之妙山谷集然作伏勝宛然齊之老書生耳又作勝女子鬱然是 略行筆髮彩生動又收六幅大龍旁畫龍王不知何 李冠卿收兩幅樓臺甚古上有三十餘官人唐裝約 筆精彩動人云五郡祈輔雨米市重史 卷六十六 米带畫史

紫極宫書 十客圖 小兒迷截圖 欽定四事至書 神定書重語 楚州紫極宫有畫沐猴振索以戲馬頓索以驚圍 不測從後鞭之人言沐猴宜馬而今為累 無名子從學魯直題扇上畫小兒迷藏詩云路即有 張敏叔有十客圖 姚宽西溪囊 語 陳師道

雙蝶隊蟻圖 意嘲輕脫只有迷藏不入詩光公稱過度録 祁獸圖 山谷居點有以屏圖遺之者繪雙樂翻舞胃於蛛絲 然畢命網羅庫蟻爭收墜翼策動歸去南柯岳列程 而隊蟻憧惶其問題六言於上曰胡蝶雙飛得意偶 山海經圖南方山谷中有獸曰類人寢其皮辟温圖

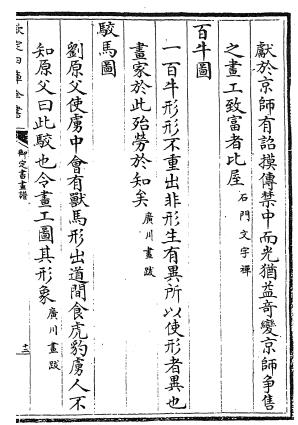
17

卷六十六

秦妙觀圖 放光二大士像 欠己日 高安龔徳莊出畫軸有二比丘像皆梵帔相好上有 化佛下布雨花熟視之有光影滅沒如日在蒼蒼涼 秦妙觀宣和名娼也色冠都色畫工多圖其貌售於 與山海圖樂天集所載同東賴餘論 其形辟邪昔白樂天當作小屏圖而替之今觀此畫 王明清玉照新志

陽善寂寺之東壁自是有光世傳神異唐麟德中有一 京之間於是大驚自失德莊曰始僧縣畫於漢州德 覆他舟而紀舟進止自若夜泊津次舟人聚語差異 僧摸之亦有光以授資州牧王紀紀奉之舟行風濤 舜俞令舉為湖州獲之作養藏為家實政和六年春 數此為我家瑞唐祚其昌乎今朝治平丁未嘉禾陳 有商婦孕瑜二年不乳聞之從紀求暴像禱之一告 而乳垂拱三年則天迎置內道場光尤得在中宗嘉

を記述を含めるのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、1

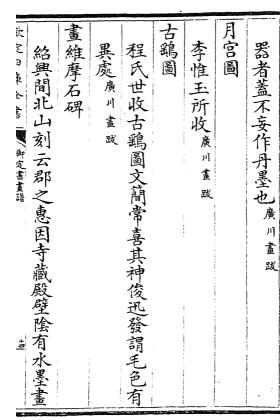


素法師行化圖 吳王斫鱠圖 列子衛風圖 其名為鱠魚則具王斫鱠其傳久也廣川畫跋 博物志言具王當棄餘江中至今具江有魚如斷館 試者圖之廣川畫 素禪師事智者禪師不事威儀而能建立一切功用 列子御風世有圖其說者崇寧五年官試畫學生便

卷六十六

織女圖 欴 波利獻馬圖 定四車全書一概御定書畫譜 浩渺之思廣川畫跋 此圖與他本小異用筆園成得簡要趣廣川 祕閣帳有波利獻馬圖畫入能品 呉江秋老霜乾木脫宜騷人行子去國干里起江湖 世敬其教故畫工得傳其像以警發流俗廣川重政 鷹還吳江圖 廣川 畫跋 畫 跋

列仙圖 | 嫩魚圖 成都府官給姆魚圖陳於宴廳此圖大小為魚數十 李子西出兵車圖左人持弓右人持矛主御者在中 廣川畫跋 此圖筆力超請而意象得之廣川重 乃知昔之畫者能深觀其隱察於制度此有稽於成 老六十六 跋

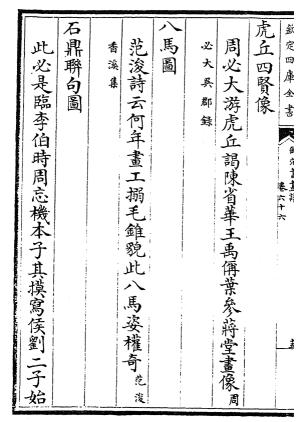


石城釣月圖 重屏圖 滅故石刻於此典此母目文殊請維摩問疾一堵意全相妙合經所就恐浸漫 笑把磻溪等樓鈴攻城集 樓鑰石城釣月圖詩云石城江頭可憐月曾照六朝 清夜獵古往今來知若何長江家家蕭蕭葉商仙去 後詩盟寒王孫詩瘦清樂樂詩情浩湯坐無奈扁舟

1 1 TT |

老六十六

騎牛潤谷圖 天王托塔圖 知之者 馬子卿所藏宋天王托塔圖不知名雲煙過眼録 已像為騎牛澗谷圖江宇府 姚鏞姚古次孫以祖父勤王功除贛州太守命工繪 自傳無疑其 右重屏圖其 陳傅良止衛集 THE CALL OF THE PERSON 圖繭然衰疾人也識者以詩知其為 圖衣冠容貌甚偉必王公大人而莫 £



楊通老移居圖 背一小兒一奴荷薦席筠藍帛槌之屬又繼之處士 驅三羊繼之一女子蓬首挾琴一童子有貓一童子 士終始確容恤疆之狀極得韓序之意劉克非後 集 而倨傲繼而倡訓俄而起立又俄而屈伏又俄而避 席鞠躬欲罷不能末而困睡睡起覓道士不見與道 帽而既者荷藥熟書卷先行一髻而牧者負布惠 即至多種皆

鉱 畫師敏或即卷中之人與劉後村集 藍縷然猶當二琴手不釋卷其迂問野逸之能每一 竟句然雖妻子奴婢平生服用之具極天下之酸寒 定四庫全書 展玩使人意消舊題云楊通老移居圖不知通老乃 别一兒坐母前持筆曳絕殿其後處士橫眉疑思若 帽帶執卷騎驢一奴員琴又繼之細君抱一兒騎牛 石氏自勒已敬重澄公至虎尤加崇奉澄公坐磐石

畢少董繙經圖 書向其師若有問者而少董坐一榻上後有二女奴 寫為繼經圖宋執一卷書背立且讀且指李執 夾深公舊物劉後村集 論語探古書有宋哲夫李願良輩執經師之好事者 **畢敷文少量名良史紹與初居汴閉户著春秋正辭** 其後合爪者當是季龍二雖當是宣韜兄弟此畫乃 胡合爪致恭二胡雜 一一年八年至4月五日皆 一持香合一持脫中立

給與瑞應圖 溪山風雨圖 金定四庫全書 ~ 陸全卿侍御以家藏瑞應圖見示此必高宗禪位後 髮者孫壽冠者馬惠真哲夫名城願良名師魏云 楊 日紹與省試總轄諸司印條養堂文集 萬里誠齊集 各有所執而阿冬者坐其間少董之季子也女奴之 溪山風雨圖一卷無題識有私印曰容齊清玩官印 卷六十六

二王石刻像 聖哲圖 東 E 9 上日 d din 一颗/御定書重譜 畫史追述其事圖有十二各有賛詞不知作於何人 獨其畫手精妙非俗工可到死翁家藏集 晉二王帖右軍二卷大令一卷前為二像扶持者各 重和元年寫真陸深城山集 右宣聖并十哲像乃宋人之筆卷尾模減數字當是 一蓋宋臨江石刻也拿州山人業

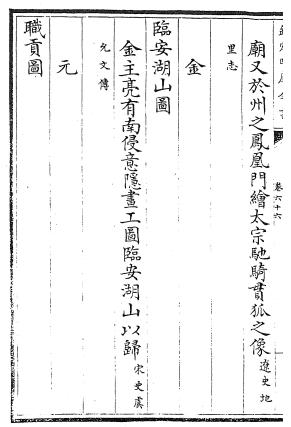
宋人傳燈圖 謝靈運出浴圖 咫尺中諸祖傳燈大意已自瞭然善巧方便之顏度 昔人多畫古聖賢圖蹟謂文弗盡經緯不能形容乃 亦無畫者名款倉東圖立覧 惟寫一大人手持一卷子既足著展鬚長幾及於展 何元朗藏宋人畫謝靈運出浴圖絹巴黑矣不鋪景 託之於畫其用意遠矣恭禪者必當及其源委此卷

卷六十六

北宋畫卷 織圖粉本 生利世之範可一寓目而得之自是熏修之一助微 之若張擇端則太著境矣此卷予不能定為何人然 其法始於盧鴻一王右丞而宋之管丘河陽競祖述 絹素熟黑而布置精謹成一段景物者必北宋物也 獨以畫重也語園續集 齡非南渡後院本可及也季月華怡致堂集

一缸定四庫全書 招 諫圖 賽神聽飲樹石分疏屋舎屈折與人物意能種種俱 絕或云出馬和之手驗其紙緊薄無廉紋信宋物也 簸自育蟻係桑以至絡緯絲織而終之以酬願佞 此宋人作耕織圖粉本也自問上播種 太祖神冊六年五月記畫前代直臣像為拍諫圖遊 致堂集 潦 以至刈養賜

太宗馳騎貫孤畫像 京已日重 台書一一御定書盖譜 馬獨追白孤射之忽不見但獲孤與矢後於其地建 大同元年世宗有騎獵於祖州大山中見太宗乘白 太宗幸弘福寺為皇后飯僧見觀音畫像乃大聖皇 帝應天皇后及人皇王所施乃自製文題於壁遼東 史本 紀



雲南圖 可知民事元史英宗紀 程籍而録之實一代之盛事從之元史世 至元十一年帝謂賽音鄂德齊 至治二年八月的畫樣麥圖於盡頂殿壁以時觀之 有司做古職貢繪而為圖及詢其風俗土產去國里 世祖二十五年禮部言會同館番夷使者時至宜今 雲南朕嘗親臨比因委

七星堂畫 軍屯夷險遠近為圖以獻帝大悅遂拜平章政事 寒音彩德齊即訪求知雲南地里者畫其山川城郭驛舍 修繕必用赤緑金銀装飾達爾瑪獨樸素命畫工圖 山林景物車駕自京還入觀之乃大喜以手撫壁數 任失宜使遠人不安欲選謹厚者無治之無如即者 元統三年達爾瑪除大都留守帝命修七星堂先是 卷六十六 739694 【图书馆

紡績圖 昔時守令之門皆畫耕織之事豈獨勸其人民哉亦 日有心哉留守也元史本傳 使為更者出入觀覽而知其本徒為篋笥之玩詠數

觳觫圖

之資則亦未矣道國學古録

為川州判官州有屠牛者許為病牛諸州上狀君臨

訳き日事 A 書一展御定書直語

客有持殼練圖過余者作而言曰漁陽嚴君大德中

卷六十六

訴盖北牛始孕不病也延按致屠者罪牛母子獲全 視之則牛自其家逸出昂首屈膝望君悲鳴若有所 今所畫騎而立者嚴君也持文書跪牛前屠者也右 顧受屠者文書若權騎者後超騎者旁君所從吏卒

孝經古畫圖 孝經蓋聖人以孝道而告諸曾参者也昔人之所注 釋儒先之所利正亦甚詳矣未聞圖之以為畫者此 也里父老既為之圖且率士友為賦詩黃學士集

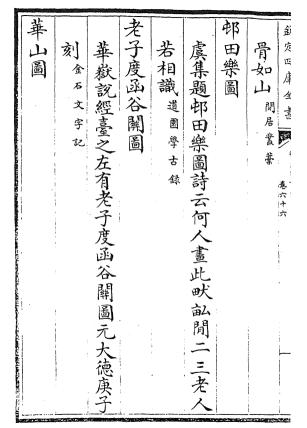
十里馬圖 馬以干里名奇馬也物之奇者世不常有有則見奇 石備乘御者又不必皆奇者也乃獨有善畫者得神 而作歌其遇與不遇蓋如此嗟夫優游六開食栗一 於世亦宜矣然漢文帝絕獻者而不受武帝喜得之 人之教人也嚴則其親我也可知矣何夢在潜商

卷水墨像曲盡其情若親拜尼山劍履日觀曾子所

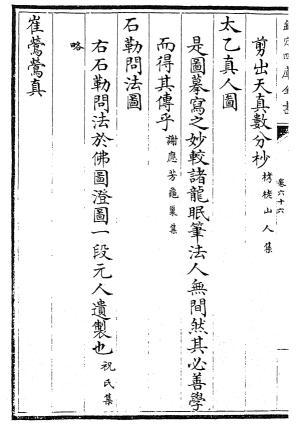
以磬折答問之狀使人容肅氣莊不敢以褻而知聖

題醉圖 欽定四庫全書 · 為定書畫 者三人抱琴而行不進者一人扶曳踢蹬面笑者 古醉圖坐而飲者三人從旁臥者一人坐而背相 駿之意而寄諸毫嫌馬噫亦微矣蘇天爵 擁一人弛衣既足偃者横體若斃兩童舉而遷之凡 醉者十三人僮四人良工心苦徒發醒者之矣具海 二人一人俯而傾憑者在其前一人仰而頹僮從後 滋 溪 集

瘦馬圖 **御驃出廏圖** 蒲道源題瘦馬圖詩云誰寫購 野門身行萬里 妙理 衣稱題煮茶圖詩云何人丹青悟天巧落筆毫必 王惲御驃出廢圖詩云何人拂絹素寫此房駟精 清容居士集 一即定書畫譜



前紙惜花春起早圖 太真春睡圖 林青蛇卷集 **岑安卿題張彦明所藏剪紙惜花春起早圖詩云誰 岑安卿詩云丹青誰寫春睡圖後世不須箴大寶** 張為題華山圖詩云何人想像圖真形疊崖陰洞高 將妙意寄工巧溪藤雪瑩金刀小丹青退舍松煤枯 一一一一一一年書書譜



西戎郊馬圖 太祖示子孫圖 たこうこと こう一個人即定書意谱 崔娘鶯鶯真像乃元人名手之所摹也私氏其略 然懷懷寒鴉數點似掠似窺情景宛其在目而何來 元人多作西戎郊馬圖此其為然者也枯槎在野鉄 洪武元年繪古孝行及身所歷艱難為圖示子孫名 禽館集

天開百馬圖

金页四库全書 |

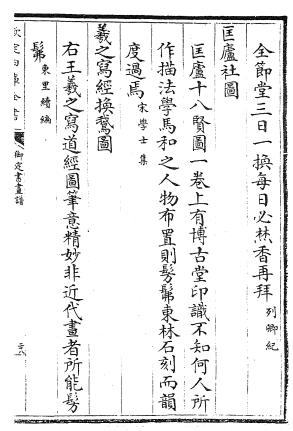
都湖之戰陳友該遣吳徹間行規我有縛以獻者上 素聞徹名釋微縛使題天開百馬圖徹應聲上詩曰

開渠何日渡江來百騎如雲畫鼓催九十九中皆汗

請秀才四字於面遣之還名山藏 血當頭一箇是龍媒上奇之度其不為我用乃刺說

宋訥像 豳風圖 高祖畫國與像賜其家衣白龍袍畫傍常開平方為 遊之雅命出觀殿宇殿東壁書無逐篇北壁則皇考 訥朝上問訥昨者何怒因出圖示訥 上御無逸殿東室召費宏曰今日間暇無幾君臣同 一使畫工明的而圖其像的方公服危坐面有怒色 校從捉刀 名山 名 L 歗

虎額衆彪圖 金定四庫全書 卷文書書 古聖賢功臣像 文自做無述創造之故宏頓首稱頌名山藏 詩北壁則上所題豳風圖長白東西小亭二壁上製 所作農家忙詩上跋其後轉觀盛風亭東壁書七月 胡拱辰當繪畫古聖賢功臣像數十幅日挂三幅於 觸其怒惟有父子情一步一回顧畜無録 解學士經應制題虎顧聚彪圖曰虎為百獸尊誰敢



藍翼圖 江山萬里圖 洛神圖 真老杜所謂尤工遠勢古莫比者與黃極後國集 煙蒼茫而江山萬里忽在几席間不知為何人之筆 洛神圖圓徑八寸許不知何人筆部質泉 吾宗伯仁兄出其所得佳畫一幅相與展而觀之雲 沈周題藍闢圖詩云卷中誰貌藍闢雪瘦馬凌兢寒

卷六十六

明妃寫照圖 切骨石田集 八日日 人工一一一一一一一一一一一一一一一一 姬後又有二人服如三美人方昇盤持盂至曲盡意馬傍又有二姬一立而持兔一插扇拽裙向執兔者 而一人扯袂附語一人後行正簪一小姬抱象板隨衣博帶持門北向又三美人迤還來一人以扇掩口 指侍兒一手托几而坐一侍兒侍立看畫工畫工緑 此明妃寫照圖圖凡十二人上一人榆禕翟冠一手

禽鳥圖 七賢過關圖 丘 度康海對山 久扁舟釣竿也桑忧思立集 常卿夏衡題寫生清玩四大字於前觀其鳴者如有 樹芳草生意潑潑屢視几案又疑身置數澤之畔而 聲吾疑耳塞飛者若進退吾疑目眩其平沙漫波野 右平湖禽鳥圖一卷吾弟民秀所藏不知何人筆太 卷六十六

任彦昇訪阮孝緒圖 飲定四車 坐書 一一一一柳定書畫籍 右畫雪景谿山樹石間為關門下自關門騎而垂者 有所負持為琴書囊箱之類皆日用所需物若移居 七人為黃牛一為騾凡五為馬之養者一從人八各 七賢過開圖那陸條山集 然位置筆意頗有住趣衣冠似魏晉間豈世傳所謂 此卷傳為任於异訪阮孝緒圖不著作者姓名詹園

右進馬圖一人戴皮冠冠上懸赤九一大如散冠簷

著鳥皮業業樣失而直製若一字北向拱手立容甚 則緣文貝為飾穿窄袖袍袍用文綺為之縷金緣欄 恭肅蓋主進馬者一人拱手立於其後容亦恭肅包

髮而不加冠牽一馬而前其馬毛色皆黑自頸至膊 釋同而冠不懸丸不緣貝必其從者也一人童顧辯 黑審深潤如玄雲蒸雨獨鼻梁隆起而白狀若玉龍

飲定四車全書 一概御定書畫譜 蓋白鼻騙也一人亦不冠童顱椎結而鼻加高牵 馬隨之其馬昂首長鳴欲追前馬馬身皆旋紋如用 努力容而馬之背則微赤自腹以下皆淺白色蓋赭 拏空而出欲追前馬牽者死挽之而力不能制面有 級緣錢勻數可以枚數而貫蓋連錢聽也一人大略 者神驗之氣有一空凡馬之意不知此圖摸何代所 白馬也相馬法曰彤白雜毛曰駁即赭白也此三馬 如前牽一馬出於其後馬耳若私竹尾若擁等兩蹄

樊素小蜜圖 毘盧寺壁畫水 定州毘盧寺壁上畫水影波紋活動若湧萬尺許不 石流題主人壁間樊素小靈圖詩云江州司馬兩紅 進之馬獨羨畫師運思之精寫人物如生亦一奇也 妝水墨何人畫此堂 列朝詩集 知何人所畫韓上桂定州志略 徐一夔始豊葉 老六十六

洛神圖 に、1 ml / 加京御定書畫譜 極有古韻其旁不作樹石别景與梁風子異調此洛 昔余見梵隆所畫七佛皆用吳道子水行戰掣之法 神卷乃寫種種然皆草草不求工級而意在布置經 此軒轅問道圖寫圖手頗纖謹傳彩鮮匀亦必畫苑 應奉所為但軒轅古帝不應作唐帽蓋俗工不知考 恬致堂集

軒轅圖

御定佩文齊書畫譜卷六十六 管實畫家粉本也恬致堂集

御定佩文齊書道譜卷六十十 致定四庫全書管要卷一萬一十三百九十九子部 遠矣當於機政之服游心翰藻觀晉人所書體尚圓潤 朕惟書契既興歷代相傳自篆籀變而為隸楷行草古 人往往積歲月彈學力結體運思以務臻其妙所由來 懋勤殿法帖序

帖歲人漸湮近時轉相摹刻者多失其真因取內府 在昔右文之君得一名蹟每使當世之能書者排類菜 教蘭亭以及淳化淳熙諸墨刻皆其最著者也朕念 仿鐫諸文石以廣其流傳為策府藝林之所共寶如 之逮唐以後或格法謹嚴或筆勢軒煮類皆神明於昔 結構天然風采流夹殿鋒藏鍔而自能雄勁故歷代重 臧舊捐與名人墨蹟遠自上古以迄本朝編次無刻 · 安四庫在書) 矩題而變化出之以自成一 悉六十七 一家之書亦代不乏人

世祖章皇帝聪明天直深心典學時麗宸翰雄奇高古體 盈笥選每思字學淵微雖精研日久正欽然未敢自信 歷年以來手書敕諭詩文跋語以及臨摹昔人名蹟屡 子孫臣民垂諸不朽朕自幼習書豪素在側寒暑事 格軍成神彩炳與洵足卓越前代謹以登諸琬琰昭示 曰懋勤殿法帖凡二十有八卷帝王法書自漢以後咸 在簡牘有明諸帝之善書者亦搜輯其遺楮以列於後

書列六藝之中兼八體之妙唐太宗論筆法謂欲書之 縁諸臣敦慰再四勉從其請用識嗜古之夙志云爾皇 之象由是觀之學書之道亦非僅操私添翰之為其通 孫之泉逍遥篇有抱索拔俗之象畫像對有於莊嚴肅 時當收視返聽絕慮疑神心正氣和則契於微妙昔人 太子皇子亦晨夕侍朕習學因并附馬以策勵其意夫 於學問性情有如是去後之覽者方源鏡流由今湖古 右軍書樂教論有忠臣烈士之象曹城碑有孝子順 一 成四庫全書

世祖章皇帝御書正大光明四大字 世祖章皇帝御筆書正大光明四字結構養秀超越古今 臨池之學具在斯快矣故於刻石既成而序之 仰見聖神文武精一執中發於揮毫之間光昭日月該 子孫萬世法康熙十五年正月吉旦恭跋 足燒美心傳朕罔不時為欽若敬摹勒石垂諸永久為

皇考世祖章皇帝以上聖之資無興王之運躬處九重心 御筆書随室銘一卷随室者何山間水涯之居詩人之所 世祖章皇帝御書随室銘 翰墨無時而不存此念也今恭親 所居若有取馬而親為書其辭則聖心之所存於此亦 周部屋盖真所謂養其民以致賢人矣至於親簡冊灑 謂考樂空谷也以萬乘之崇高不忘草茅之甲末於其

一一年全書 為在定書言

荷斯周宣續緒文武一時從臣方叔召虎竟於岐陽陳 法物之僅存者也今列在太學實斯文之盛當尋繹掃 这今二千餘年而中興之烈岐陽之竟俯仰如昨魯壁 朕釋真先師於國學觀石鼓於廟門之兩庭緬懷周宣 本推詳其遺義有會於心馬乃為赞曰 汲冢缺有間矣此文此石獨與然與日月争光是三代 可見馬康熙十六年九月四日萬善殿記 石鼓賛

ALI O LOL de de lo 一個人衛定書重譜

在泮宫設於廊無是切是磋匪擊匪粉橋門觀禮如對 簋簠庶幾文治再見三古 完句可數天門該湯岐山翔舞軒商是班鍾王敢伍陳 上蝌斗失傳到落誰補車攻馬同應應虞農是針月 考擊致煩矇瞽鼓聲思將義蓋有取歷二千年樂日蝕 列折考鐫功告成伐石作鼓以歌以銘載規載矩豈備 城碑相傳為晉右軍將軍王義之得意書今觀真蹟 跋王右軍曹娥碑

披玩拳做覺晉人風味宛在几案間因書數言識之 者至今千餘年神米生動透出網素之外朕萬幾餘服 見刻之榻本中今親其真蹟可為希代之實藏之篋行 晉右軍將軍王義之真蹟存於世者勘矣快雪時晴當 不時觀閱恍接其人於千載以上也 下勢清圓秀勁衆美兼備古來楷法之精未有與之匹 書蘭事帖後 跋王羲之快雪時晴帖

足以累之况奇心翰墨於幾務之餘豈非前王之令軌 善本賜其臣僚可謂勤矣而卒無妨於治國理民之政 施於後世者多矣高山在望景行行止寧獨於關亭一 唐文皇嗜蘭亭帖至竭萬垂之力多方以購之又時極 蓋其納諫受言力行仁義所圖者大舉凡游藝之事不 推考其時貞觀之風幾與三代比隆其仁心善政可 · 定四庫全書 王右軍洗硯池贊并序

舊有洗硯池三大字斷闕不全皆考晉書右軍雖系那 歲久無沒今為緇流所宅祠守三楹面離背坎上設右 之澤筆池也一名洗硯池相傳即其故宅傍有號書臺 子己己南巡兩經其地咨訪土人曰此晉右將軍王羲 軍像風神高爽嚴然晉代衣冠墀無碣石鱗次中為鄉 那十七帖餘皆後人憑予詩文及紀載祠宇與廢始末 琊自其父曠已南遷右軍未歷江北或者以王氏舊居

汗州治西南池水一 弘連将清淺在斷垣荒草中朕甲

石軍於書東生知質仍不廢學功專且壹臨池完墨池 察可想見使得行其志於以毗輔晉室振挽頹風豈懂 大略遭時多故用違其才觀其與桓温書其人品學問 金 京 四 库在 書 以書法見長哉乃為之替曰 所在逐傳會之未足深辯朕萬幾餘眼日事臨池雅受 其筆法近復命新蘭亭故址以表彰之夫右軍懷經世 水如漆艾山何高沂河有沙山城古祠人傳遺蹟緬懷 ~大士林之特完厥生平乃心王室經濟可名奚止養

虞世南仕貞觀朝為太宗所賞稱其五絕一曰徳行二 世南言論行事果有卓然足多者其書法少師智永專 曰忠直三曰博學四曰文詞五曰書翰今考唐史所載 !不懈晚年遂造羲之之室當時與歐陽詢並以書名 跋虞世南墨蹟後

術虎即龍跳其人其筆

骨君子藏器以真為優誠為論矣但世南墨蹟稀如麟

議者謂歐虞智均力敵然震則內含剛柔歐則外露筋

識之後以示珍重云 時民間鮮有藏蹟故云然也朕萬幾餘暇雅好臨池宫 鳳黃庭堅云孔廟虞書貞觀刻干兩黃金那購得想當 史稱顏真卿立朝正色剛而有禮非公言直道不萌於 舊藏属書時出放覽養做其意輕有神會爰濡筆而 跋賴真卿墨蹟後 表六十七

遣諭李希烈竟被賊害觀其赴火馬逆何其烈也平生

出新意細筋入骨如秋鷹題石蒼舒醉墨堂詩云我書 奇正相生如錐畫沙直透紙背覺忠義之氣猶勃勃格 善正草書宋祁稱其筆力道婉今披閱遺蹟凝重沉鬱 後論書詩可知矣戴題孫羊老墨妙亭詩云顏公變法 論者謂宋四家書皆從顏魯公入然亦其天分高出 墨間联重其人益愛其書不啻逾於球壁矣 時神明變化於古人耳實不盡拘於成法也觀蘇軾前 跋蘇軾墨蹟後

取勢以雄秀取態殆變化於古而不專主於顏者世又 石如怒龍噴浪今觀其真蹟信然豈區區成法之是拘 云東坡晚歲自海外挾大海風濤之氣作字如古槎怪 請軾書亦學徐浩今浩書刻帖具在亦不相似也郭昇 意造本無法點畫信手煩推求故其生平所書以跌荡 **及堅泰觀晁補之張耒輩游於蘇軾之門當時稱蘇** 跋黃庭堅墨蹟後

悟筆法此其草書之所以異也至所作行書則去姿娟 章學問固卓華不犀而行草書亦自成一家元祐中當 門四學士而庭堅為尤者時人至以配軾稱蘇黃其文 雄姿猛氣逸出常度亦無傷其為神殿故朕恒玩之 獨存風骨直欲與蘇軾分道揚鐮不肯俯循其轍間或 蹟當更有得後滴點獲見之遂深契藏真之妙當自云 元祐間筆意癡鈍用筆多不到晚入峽見長年遠榮乃 作草書於僧舎軾賞數再四錢總從旁曰君見自殺真 N) 引起 do Alo 一個/御定書畫譜

米芾書在宋四家中特為雄秀史稱其沉著飛煮得王 跋米芾墨蹟後

献之筆意或云帝始學顏書已而宗李邑又棄而學沈 師數數改業遂成名家今世沈傳師書絕少其與米

之優劣無可考要以得法於獻之為確論也未熹曰米

老理會得字故所論皆實是朱子蓋亦心折之其為書

豪邁自喜縱橫在手肥瘦巧拙變動不拘出神入化莫

可端倪洵堪與晉唐諸家爭衡昔人謂右軍如龍北海

書觀朱子論書一則有曰字被蘇黃寫壞近見祭君謨 如泉然則带其在龍泉之間敏 跋朱子墨蹟後

平日於柳公權心正筆正及程子寫字主敬之說盖必 帖字字有法度如端人正士方是字考事固大儒其

有取也然觀其墨蹟亦問有蘇黃筆意考亭之論或出

於其門人所附會未可知爾蘇黃筆法原從顏柳得來

考亭書沉着古勁當亦本於顏柳故時有不期而合之

一樓/知定台盖塔

處耶 跋宋掃淳化閣帖後

全書

刻法帖十卷榻以澄心堂紙李廷珪墨大臣登两府者 宋太宗皇帝當遣使購歷代君臣書蹟命侍書王著模

年之後予此本刀賜翰林學士畢士安者神采與發波 磔明潤漢晉以來翰墨風規宛然猶在者尚賴此帖之 方得賜馬蓋其重之如此當時本不可多得况歷數百

存也朕幾政餘間放帙被卷如晤往昔心意融治洵可

宋源作趙孟頫傳云篆額分隸真行草書無不冠絕古 寶而藏之也 跋趙孟頫墨蹟後

者至矣蓋書自宋四家盡變唐法而關事玉潤諸帖之 今鮮于樞云子昂諸書皆為當代第一而小楷又為諸 一胡長孺云上下五百年縱横一萬里其稱賞之

無迹故一時於為度越前代然相傳其當作米書颠自

意沒遠孟順起而橋之全用二王矩變心暴手追神契

天分得之性生不可勉强人功盡則天自見右軍學書 棄去以為不及良由米帝以天勝孟順以人勝故爾弟 臨摹而於米趙墨蹟尤珍愛不忍釋手做成卷軸動 池水盡黑如此安得不神朕於古人諸法書無不展 盈十用其天人交盡得古人微意而自忘其握管濡翰 華亭董其昌書法天姿迎異其高秀圓潤之致流行於 跋董其昌墨蹟後

鱼灰四月 全吉

淵源合一 能得其運脫之法而轉筆處古勁藏鋒似拙實巧書家 色草書亦縱横排宕有古法朕甚心賞其用墨之妙濃 擅能而根柢則皆出於晉人趙孟頫尤規模二王其昌 體皆原於晉人盖其生平多臨摹閣帖於蘭亭聖教序 如做雲卷舒清風飄拂尤得天然之趣嘗觀其結構字 欽定四庫全書 一人冊足書直語 謂古釵脚殆謂是耶顏真卿蘇軾米帝以雄奇峭拔 一故華諸子輕得其意而秀潤之氣獨時見本

楮墨問非諸家所能及也每於若不經意處丰神獨

此良不易也因臨池之暇遂書此於簡末 淡相間更為夏絕臨摹最多每謂天姿與功力俱優致 其形似且極游行自如之妙朕當爱點揭之屏風因題 書天馬賦縱横霧衛前無古人董其昌所臨既得 跋董其昌書計三 則

晉唐人之中獨出新意製以為屏列諸座右晨夕流賢

一觀古人墨蹟華 事董其昌書畫錦堂記字體道婚於

語志真賞馬

月 昌筆法題跋數語命之續書以志朕意時康熙壬成二 寧不遠勝鏤金錯彩者數 欴 此屏裝潢既成尚餘鎌素詹事沈荃亦華亭人素學其 承睫削玉霜蹄團花霧髮乾維叶象房宿効形體中 深韓幹古之筆精寫此駁足干載如生紅光耀唇紫 日 畫 畫馬費 主

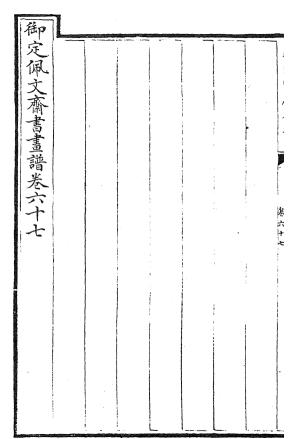
里我聞在昔文德談叛黃服早聽哀駕車覽物心 儀式法合圖經鵠起鸞停風茲電駛不遇九方熟致干 舊溪尺幅衣冠古貌出蒙莊辯論新劍客滿前毛髮動 須知繪事亦通神 一圖神往曾是權奇曾是似價南浮真水北絕玉山利 地用充我天開 題蘇軾墨行詩 題周文起畫說劍圖詩 怡

不比凌霜挺節心 徑尺質管墨淺深雪堂健筆勢干尋縱競疑露春梢色 春游多少太平人 天津橋下水點都外盤丹灰畫輪想見汴京全盛日 節定日奉 生書一一一一一個定書畫譜 化無形乾文九五取象君德時乗六位周流八極雲行 雲龍縣縣泉物之靈暫行萬里少息干齡飛潜應候變 陳所翁畫龍費 題張擇端清明上河圖詩

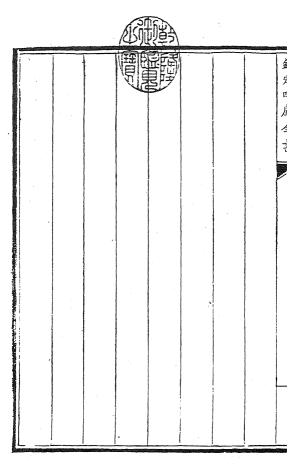
其大首宗周式做犀雄龍戰逝將去此八荒周福徐甲 點睛斯活波濤騰涌煙霧滅沒遠宅江海亦遊名都夏 乃下馴擾可泰奚供菜寫私藏斯悉以驗真者 王遠駕虞舜受圖命官紀年用表複符德至泉水神物 精蜿蜒天橋巧若天成嗟此好手聲價超越得水能飛 修身養壽古隱君子掌藏室書為柱下史清靜自正是 雨施品索生殖爰有哲匠綱素經管僧縣砥筆董羽研 老子出開圖費題孟

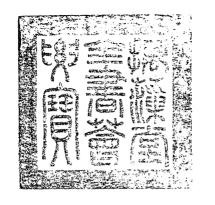
港六十七

莫同来雲上下熟知其終至聖所名斯言我從 負笥青牛服韅閥尹望氣物色候門和光抱一 遊人倚杖尚徘徊 流鶯百轉起煙槐細雨油雲點翠苔松竹青青山色静 存少留着書虚無是論玄文既宣解人亦寡入於無根 飲定四車全書 柳定書直語 寫道德又貌仙真萬古肅穆琴歸伊人神龍見首變化 廣莫之野去住兩忘物無害者吳興學士繪事肖神 仇十洲青緑畫詩 孟



灾已日年日生 舊作賽典赤今改後做此 後六行達爾瑪舊謹案卷六十六第二十一頁前八行赛音鄂德齊





校對官無吉士臣楊壽楠總校官無吉士臣張能照 **腾録監生臣王**